

平成 29 年度 NGO 相談員 フィードバック・シート

団体名：(桐生「対話の会」)

この「フィードバック・シート」は、NGO 相談員制度を利用された方の「生の声」をお聞きすることにより、NGO 相談員制度をよりよいものとする目的で実施しております。

本用紙は外務省ホームページに掲載させていただくことがあります。

①相談日：2018 年 3 月 18 日（日）

②相談を終えての感想：

- 今回のご相談内容についてお聞かせ下さい。

私たちの活動の中心である「対話」という行為が、個人レベルに留まらず、世界平和の構築にもつながることを確信できました。合わせて、国際 NGO 活動への多様な協力の仕方のヒントが得られた催しでした。

- 相談員の対応はいかがでしたか？また相談内容は満足のいくものでしたか？

こちらが希望したテーマにピッタリ沿った適切な写真を映写しながら、現地のリアルな状況と支援活動を具体的にわかりやすくお話していただけたので、参加者も主催者も、たいへん満足のいくものになりました。

- 相談員より受けた情報やアドバイスを、今後どのように活かしたいですか？

講演のあと「対話の会」方式で行われた講師との意見交換（質疑応答）では、それぞれ多くの発見があったようです。地方都市では「紛争」や「平和」について語り合う場が少ないのですが、今回の成功をきっかけに、今後も語り合いを継続できそうです。また、JVC の活動に対しても、地域発の提案と協力ができそうです。

- 他にお気づきの点、ご要望等がありましたらご自由にお書き下さい。

参加者から主催者に届いた感想の一部を、筆者の了解を得て紹介します。

(60 歳代男性) 今回のテーマは、50 年以上前から考えてきたことで、10 年ほど前にはブログに自分の考えをまとめたことがありました。自分なりには納得した結論ですが、いかんせん、紛争・戦争の現場をリアルに知らないわけ（私の考えに反論をする人も、当然、その点は同じでした）ですから、その点で、お互いに説得力に欠け、最終的に議論が平行線に終わってしまうことが多かったです。今回、NGO という立場から「リアル」に現地の様子を伝えていただき、求めている答えがここにあると確信しました。

(40 歳代女性)

参加できて本当によかったです。実はたった今も、アフガニスタン、パキスタン、シリアなど、多くのところで、多くの人が銃を向け、向けられ、血を流し、命を落としている……という話を聞いているときは、その非人道的な行為の恐ろしさを肌感覚で認識しても、また、日常生活をこなしているうちに忘れてしまう……という当たり前のことを再認識しました。今回のように、現地の声、当事者の声を聴くたびに、当事者の気持ちに深く思いをはせるのですが、残念なことに、3 日もすると忘れてしまうという現実をなんとかしなくては……。また、話の内容とは別に、新たな発見があり、本当にありがたかったです。自分の中での論点整理ができました。私が当事者（アフガニスタン在住者、JVC スタッフ）ではないからこそ気づく様々なことがあり、今後の「視点」が増えました。確かに教育が重要。その中の最優先が「対話教育」なのかも知れません。ただ、対話と言っても、訓練なしで簡単にできるものではないでしょう。今後も、だれかを「支援」するときに、今、自分は相手と対等か？ これは、本人が望んでいることか？ 本人は自分の本当の望みを伝えることができているのか、できるのか？ ということを忘れずにいたいと思いました。

- 本用紙を外務省ホームページに掲載してもよろしいでしょうか？

[○] 可 ・ [] 不可

*以下は、差し支えない範囲でお書き下さい。

③ ご所属： 高校生以下 学生 主婦・主夫 会社員
 退職者 無職 教員 企業関係者
 労組 行政・政府関係者 その他（学校カウンセラー）
 NGO 設立希望者 NGO・NPO 関係者

ご協力ありがとうございました。

*以下は NGO 相談員が記入

④相談対応者：加藤真希（アフガニスタン事業担当）

⑤相談対応時間： 2時間00分 ⑥相談準備に要した時間： 6時間00分

⑦相談に要した時間合計（⑤+⑥）： 8時間00分

⑧相談に際し、工夫・留意した点：

今回は初めて訪問する地域だったので、活動地の地域の状況そのものとともに、国際協力活動の全体像を伝えることに重点を置いた。